



未来へつながる軌跡

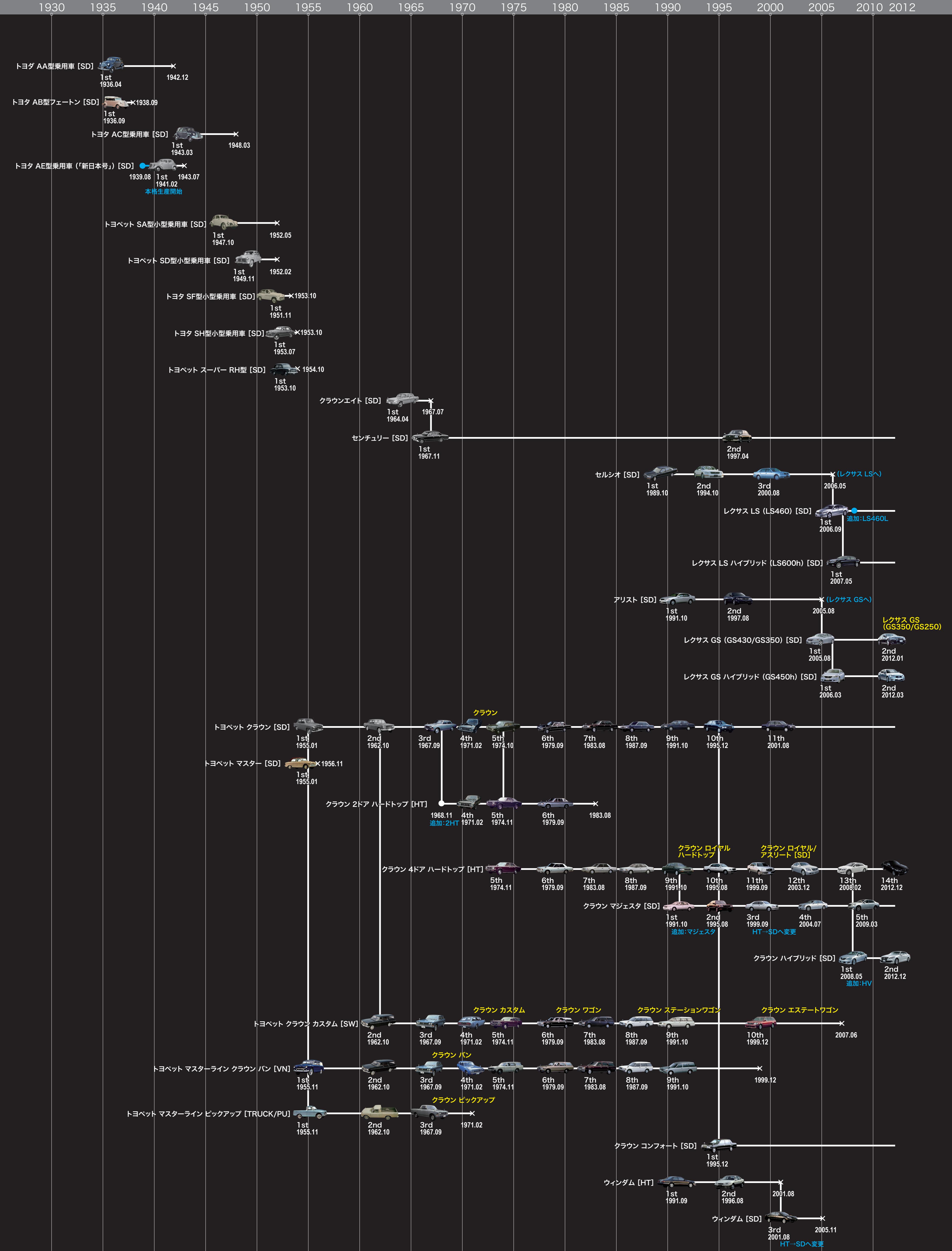
点・線・面で描く、
トヨタ 75 年間の車両系統図

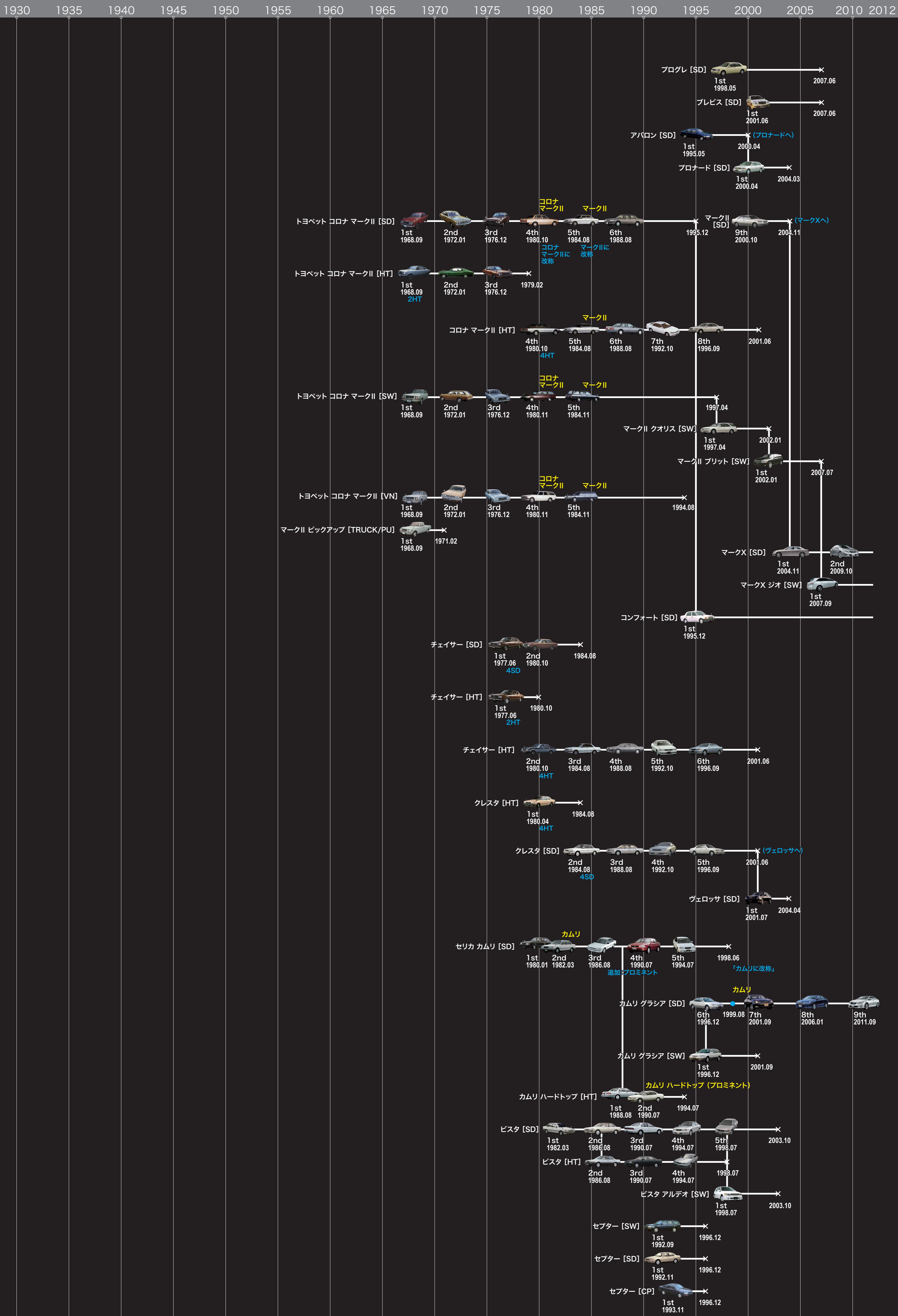
「お客様の笑顔のために、もっといいクルマをつくりたい」

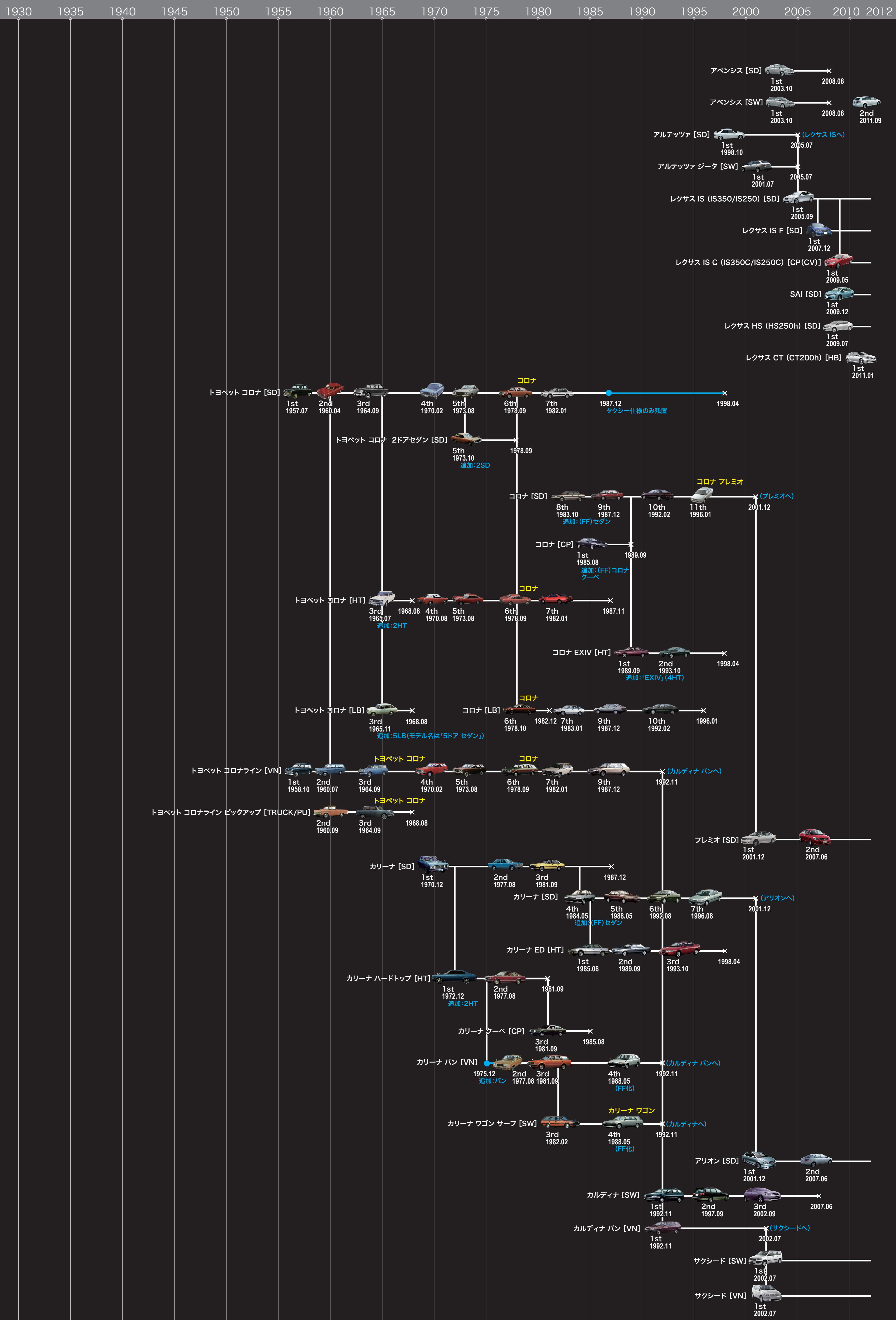
トヨタは常に、目の前のクルマづくりを真剣に行なってきました。
クルマづくりは決して平坦な道のりではありません。
試行錯誤を重ねながら、一台一台、部品一つひとつ、
情熱を持ってクルマづくりをしてきました。

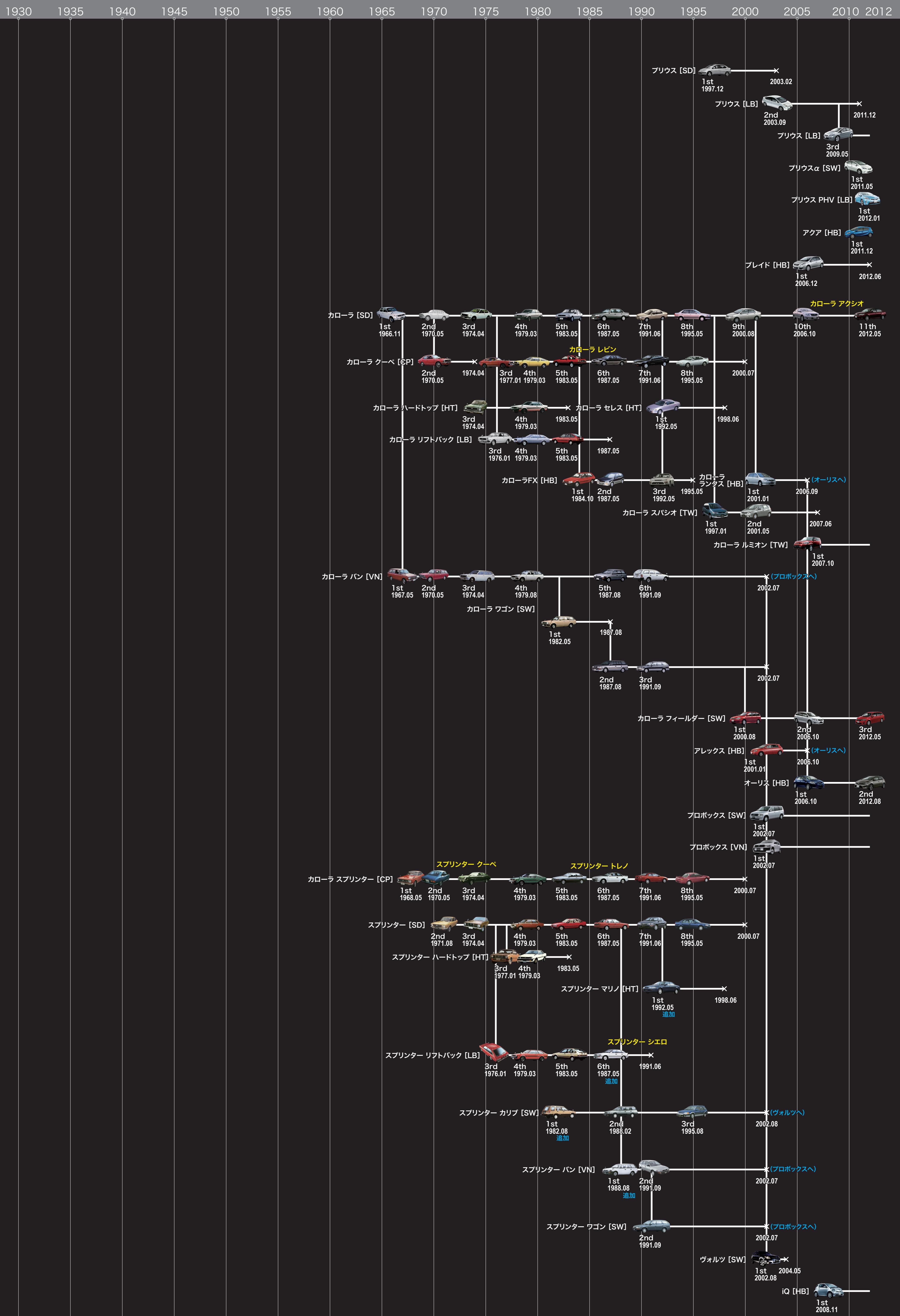
その“一瞬”は、「点」ですが、
一台のクルマは、次の一台へと時を重ね、
「線」となって成長していきます。
時代とともに、社会とともに、国を越え、世界中のお客様とともに、
クルマづくりを重ねてきた軌跡は、「面」となります。

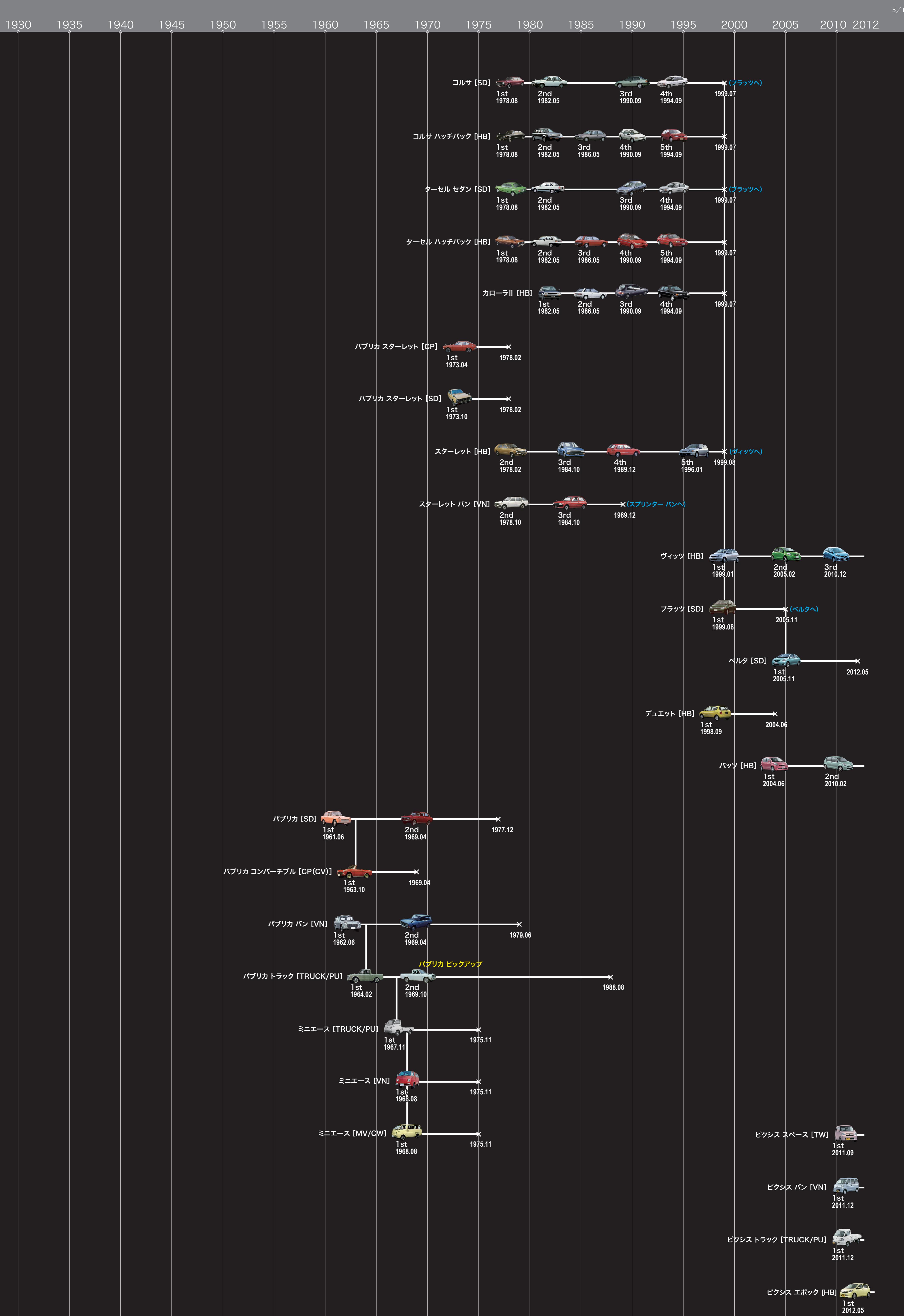
「車両系統図」は、
お客様の笑顔のために歩んできた、従業員一人ひとりの想い・情熱、
そして、その軌跡をカタチにしたい、と考え、描いています。

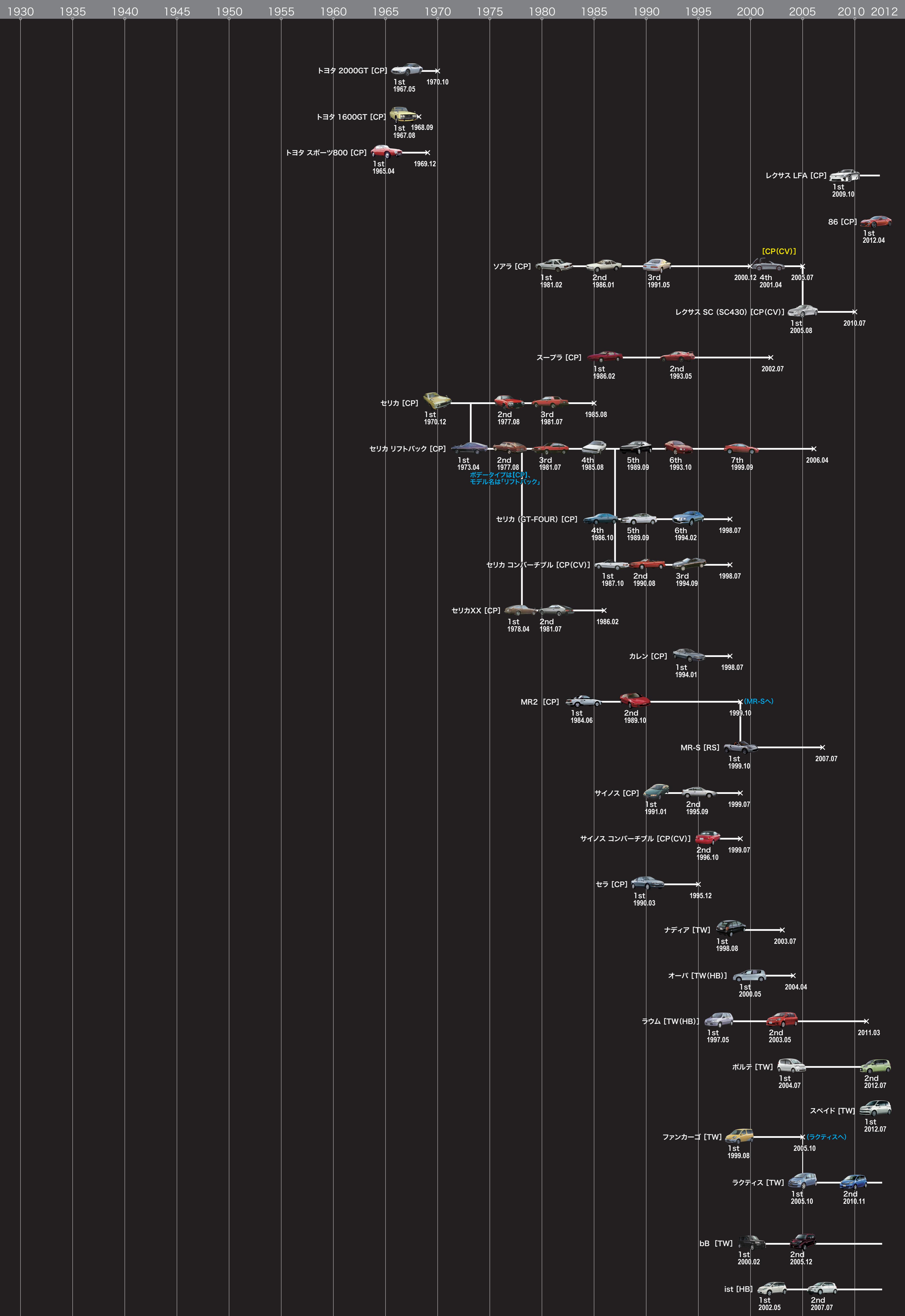


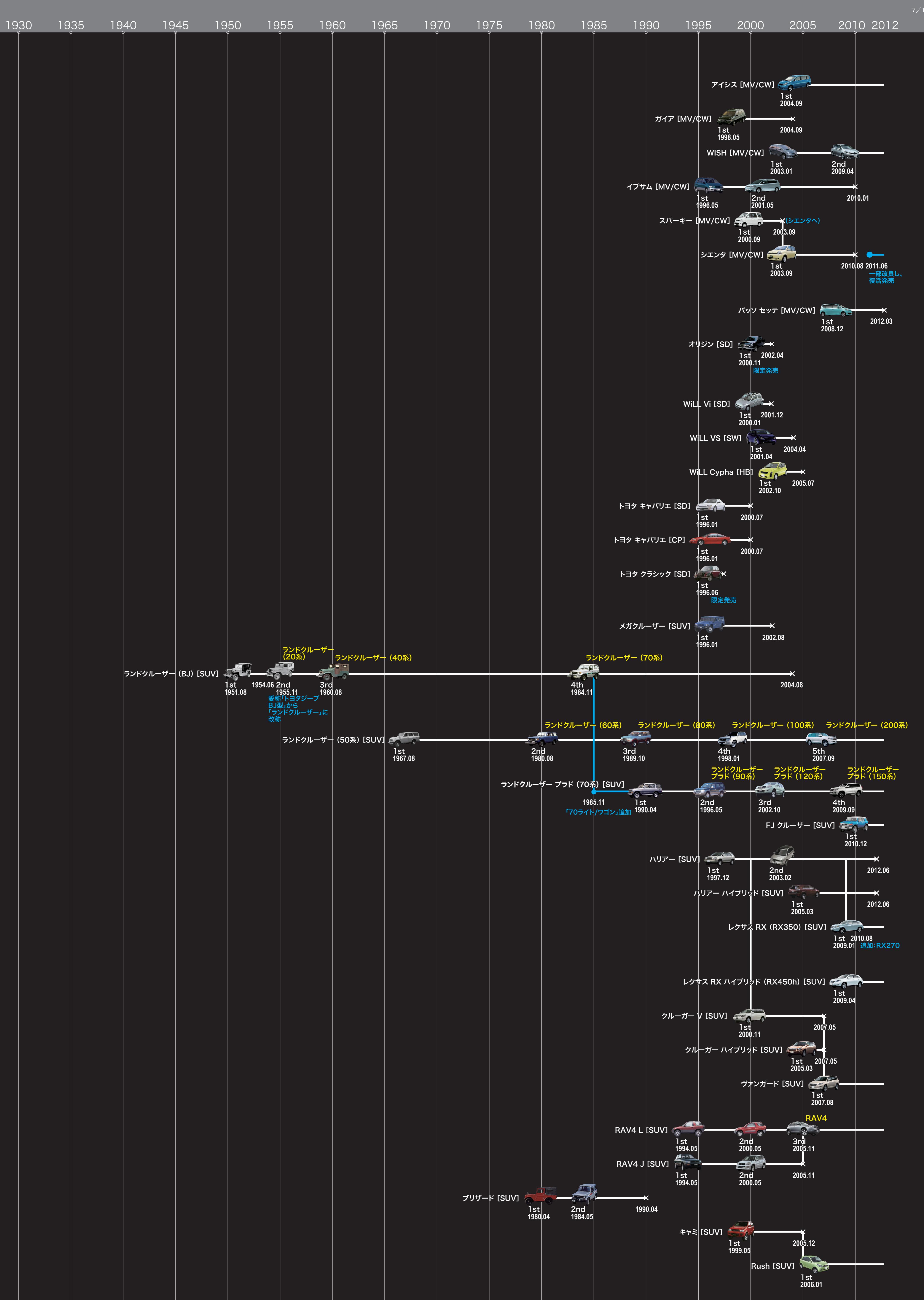


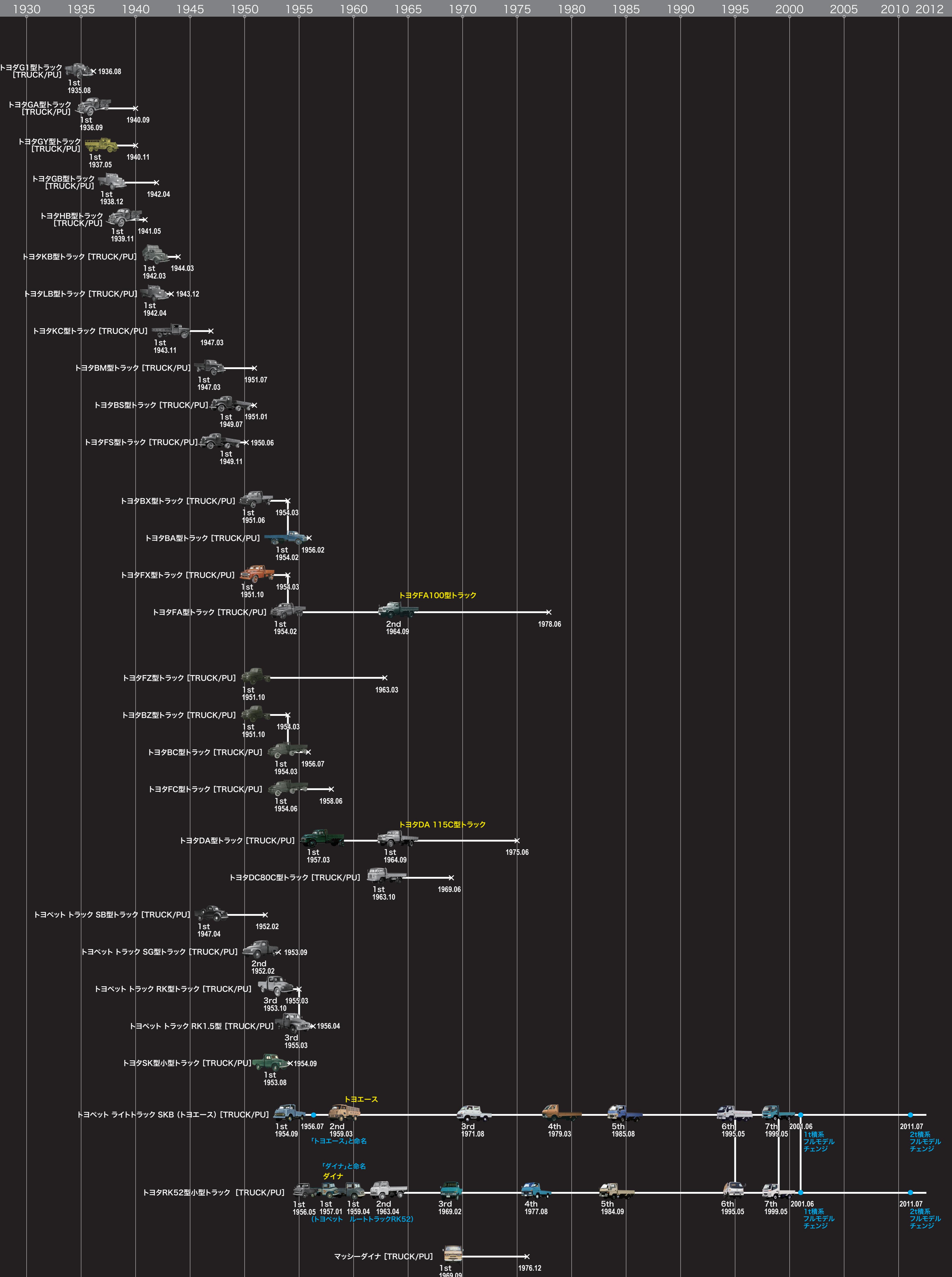


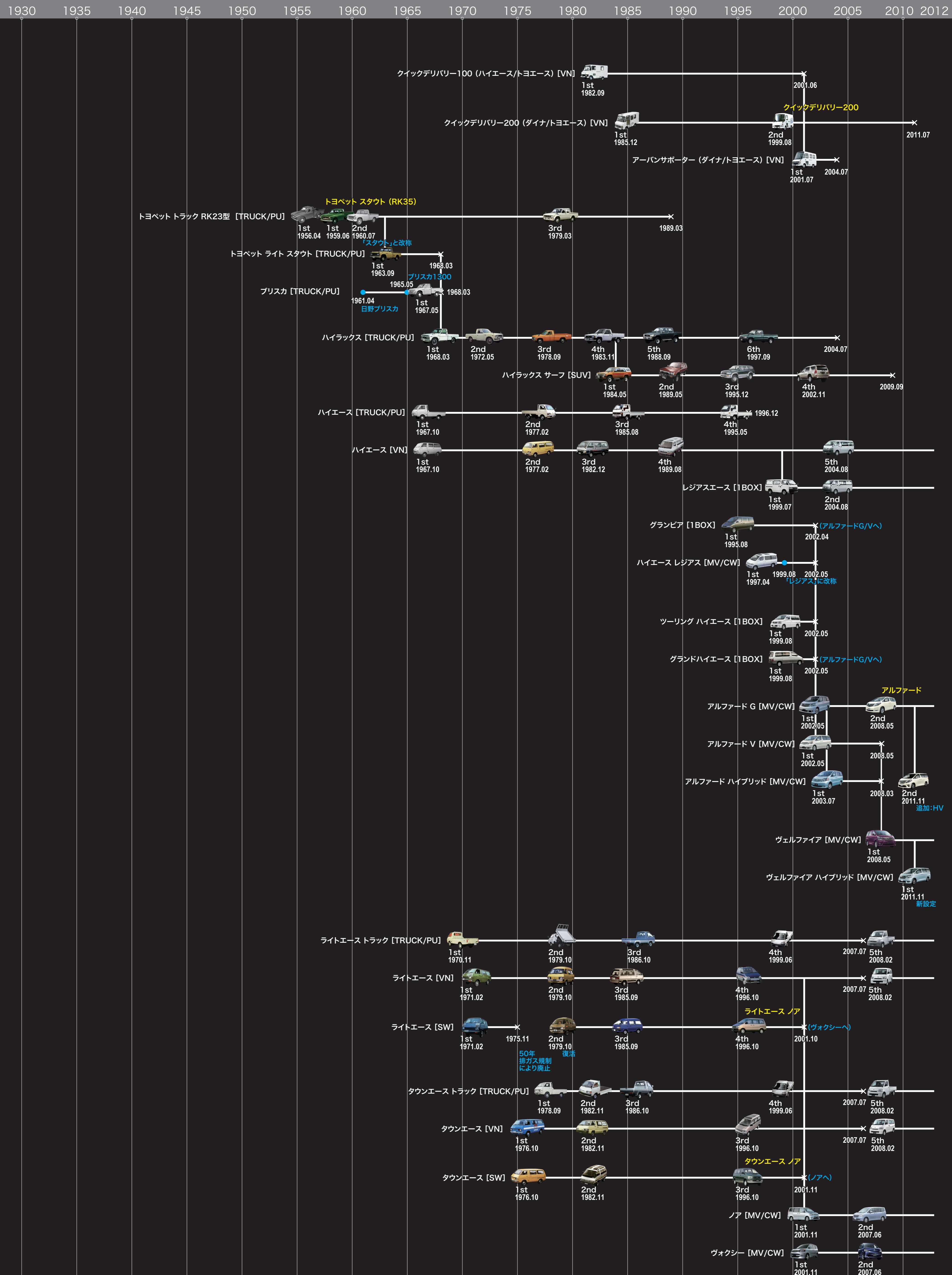


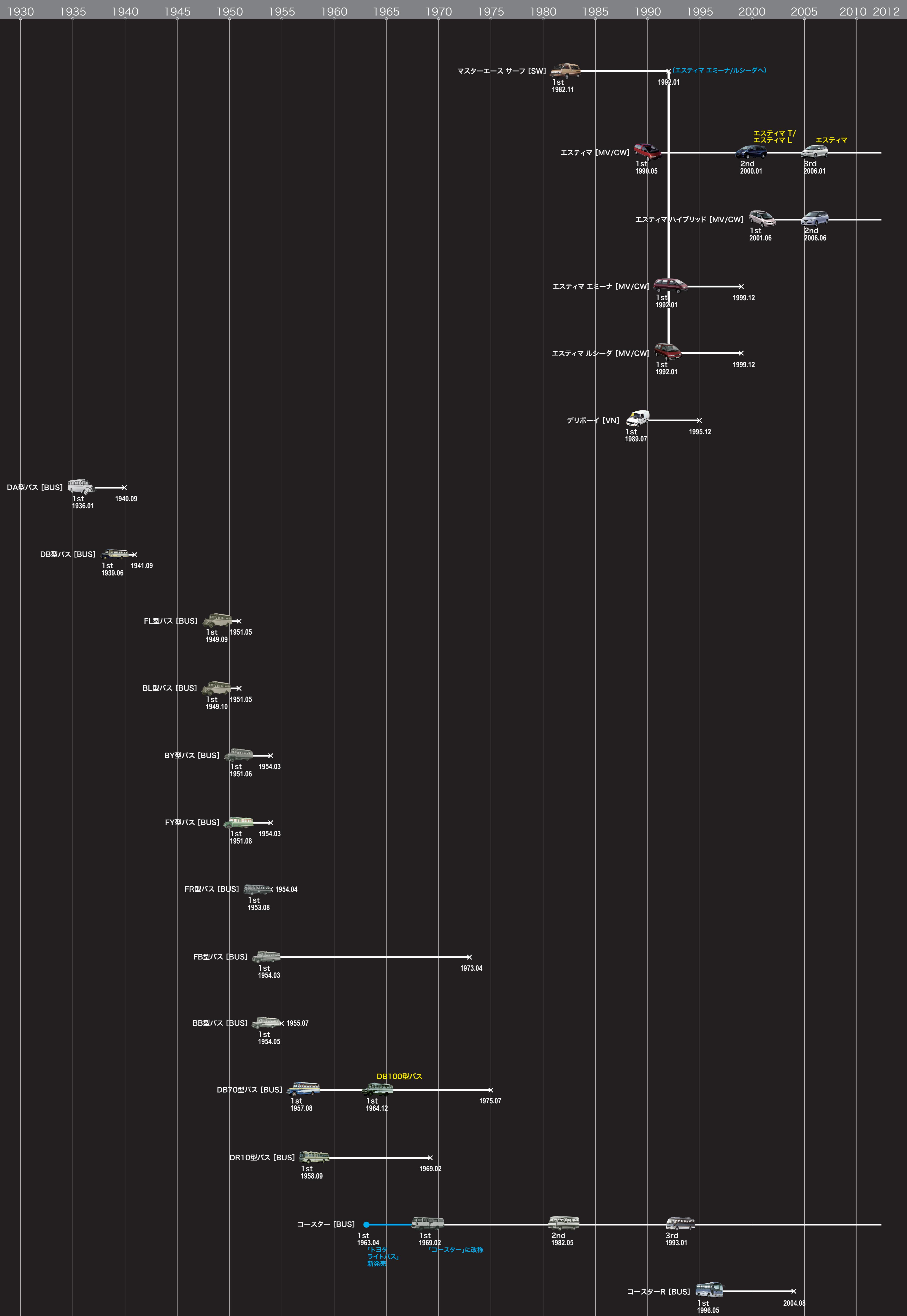












凡例・注記

【凡例】

(1) トヨタは、1935年（昭和10年）11月の「G1型トラック」の発表から2012年現在に至るまで、国内で約1億4,500万台（海外生産もあわせると、約2億台）の車両を生産してきた。（2012年6月末時点）

「車両系統図」とは、これらトヨタ車およびレクサス車の75年間の変遷を、主だったボデータイプ毎に、モデルチェンジ時期を示しながら系統立ててまとめたものである。

(2) 「車両系統図」は、以下のように構成している。【車両詳細情報は「トヨタ自動車 公式企業サイト」をご覧ください（www.toyota.co.jp）】

- I. 「75年間の系統図」（トップ画面）
- II. 「車両詳細情報」（各詳細情報画面）

(3) 「75年間の系統図」について

1) 各車両（モデル）毎に、どのような「流れ」を辿ってきたか、「軌跡」を表す

- 例）・「代」の変遷
- ・ボデータイプの種類
- ・「派生」の関係性

2) 時系列で示し、時の流れを表す

3) モデルチェンジのみを掲載

4) 主だったボデータイプを掲載

5) 主だった派生車両を掲載

(4) 掲載している車両およびモデル数は「乗用車（約400台）、商用車（約200台）」である。

※マイナーチェンジ、改良、追加、特別仕様車、特装車などは記載していない。

※ボデータイプでも一部記載していないものもある。

(5) 掲載データは、2012年12月末までに発売の車両および、記述は2012年12月末時点のデータである。（一部、例外もある。）

【注記】

(1) 車両の掲載順番について

1) 大きくカテゴリー毎に区切って表示

「乗用車」
↓
「商用車」

2) 車両の掲載順は、基本的に、「初代」車両の「全長」の長い順とする。ただし、「2代目」以降が、「初代」と大きく変わった場合は、それに該当しない場合もある。

3) 乗用車、商用車を、カテゴリー毎に区切って表示

乗用車 : セダン系 / スポーツ・スペシャルティ / ステーションワゴン / トールワゴン / ミニバン / スポーツユーティリティ
商用車 : バス / 大型トラック / 小型トラック / パン / ワゴン

4) ボデータイプの略称について

SD	:	セダン	HT	:	ハードトップ
HB	:	ハッチバック	LB	:	リフトバック
CP/CV	:	クーペ / コンバーチブル	RS	:	ロードスター
MV/CW	:	ミニバン / キャブワゴン	TW	:	トールワゴン
SW	:	ステーションワゴン	VN	:	バン
SUV	:	スポーツユーティリティビークル	1BOX	:	1 BOX
TRUCK/PU	:	トラック / ピックアップ	BUS	:	バス

(2) 制作にあたっては、社内関係部署をふまえて検討してきた。ボデータイプのカテゴリー区分など、諸説あるが、ご了承いただきたい。

(3) 本「車両系統図」の著作権は、トヨタ自動車株式会社に帰属する

(4) 本「車両系統図」の複写・複製・貸与・譲渡・印刷・不正使用を禁ずる

【ご協力】

株式会社アディ
株式会社インターフォト
竺 覚暉
株式会社 電広エイジエンシー⁺
株式会社日本デザインセンター⁺
株式会社 リングライト

伊東和彦
大日本印刷株式会社
株式会社デルフィス
株式会社 電通
山崎 幹泰

（敬称略・五十音順）